二〇一三年一〇月一八日

伊勢参りここが起点と小鳥来る　ぽんこ

岬鼻へ続く秋思の靴の跡　三刀

赤い羽根胸豊かなる一少女　宏虎

道しるべ古りて傾く草紅葉　満天

遠山の翠黛しるき秋の空　三刀

自販機の前に屯す夜業人　さつき

二〇一三年一〇月一七日

口開けし通草をさげて句座の友　有香

吾妹子もひと口つけし温め酒　雅流

湯の街の路地しつぽりと梅雨に濡れ　三刀

二〇一三年一〇月一六日

大釜にたぎる湯煙秋祭り　よし子

丁目石ここよここよと残る虫　ひかり

二〇一三年一〇月一五日

賞の菊育てて独り侘び住まい　はく子

四阿を借りて昼餉や秋時雨　つくし

露に濡れ深き祈りやマリア像　菜々

祭獅子猛る四囲より囃されて　よう子

登高す女人高野のよろい坂　満天

二〇一三年一〇月一四日

秋天へ湯立ての笹を振りにけり　雅流

赤い羽根見よと胸はるやくざ風　なつき

な踏みそここだ木の実や裏参道　きづな

二〇一三年一〇月一三日

産土の祭り支度す長寿眉　三刀

二〇一三年一〇月一二日

楽奏づことは至難や瓢の笛　よし子

このあたり古墳銀座や野路の秋　菜々

高僧の塔頭訪へば鵙高音　菜々

ヒーローへ子らの声とぶ菊花展　せいじ

毎日句会みのる選・二〇一三年一〇月二〇日